

2013年度 総会 山本博美先生 講演全文

<プロローグ>指導員として学童保育に関わり続けて

はじめまして。山本と申します。

私が指導員になったのが1979年なんですが、その頃は皆さんまだ小学生くらいだったんじゃないかと思いますが、春日部はほとんどが父母会運営で、指導員さんたちの組織も父母の組織も「市連協」というものがあって、とても盛んにやっていたらっしゃいました。私が指導員になった次の年にですが、一ノ割にあります「風の子」という学童保育があったんですけども、そこに黒澤先生と言う指導員の方がいらっしゃって、その方は埼玉県の指導員の連絡協議会を作ったんですね。その方は、まさにプロ級の版画家の作者として、私も黒澤先生に版画を教えていただきたくて、指導員2年目に、一ノ割の黒澤先生の学童に毎日通った覚えがあります。今は90歳くらいになられますが、春日部を離れて印西市と言うところに住んでいらっしゃいますが、未だに学童保育の事をとても心配しておられて、「あのころが自分にとって人生で一番充実していた」というふうにおっしゃっています。今でも暑中見舞いの葉書などに、それはそれは見事な版画を送ってくださいます。春日部というと、私は一番先にその黒澤先生の事を思い出すわけです。版画だけではなく、私がいろんな面でとても尊敬する先生です。春日部でもう一つ思い出しますのは、せんげん台の団地の中の学校で東武沿線（県連のブロックは鉄道沿線ごとに「東武」「西武」「京浜」「東上」「北部」というふうに分かれているんですが・・・）の指導員の研修会をよくやっていた。春日部は施策が変わってしまいましたが、未だにこうやってお母さんたちが指導員と協力してやっているというのは、すごく大変なことだなんて思います。私は33年と半年くらい指導員をやっておりまして、今年から八潮の学童に入っているんですが、もう一つ、東京の自主学童にもかかわっています。東京は学童保育は潰されてしまって、学童保育の体を成しているのは文京区と目黒区くらいですね。あとは全部、小学校の校庭と空き教室を利用した全児童対策の中で、学童の子だけロッカーを置いたりおやつを出したりというやり方、区によって違うんですが、になっています。その中で、私が今行っているのは共同保育の学童なんですが、その区的全児童は5時に終わるんですよ。今時5時と言うのはね。職種にもよりますが、5時になったらぱたんと仕事を閉じて終われる仕事ばかりじゃないですよ。そんな中で、5時に終わられては困る人たちが自主運営でやっている学童なんです。要件を満たしてないから補助金も出ないんですよ。障害を抱えている子もいて、指導員は昔草加に居た指導員なんですが8万円くらいで働いていて、もちろんダブルワークしてます。私はボランティア（八潮の学童はボランティアじゃないんですがね）でやっています。施設は町会の協力で、家賃は1万8千円なんです。東京は学童自体が崩壊してますね。

<学度保育の現状>「指導員のところは、調査の度に減入ってきます」

本当に地域によってばらばらで、全国連協（全国学童保育連絡協議会）が5年毎に学童保育の詳細な調査をしています。去年実態調査をしています。前回は2007年で、学童保育はすごい勢いで増えていて、ざっと紹介すると、まだまだ学童保育は遅れているんです。保育園はきちんとした基準がありますね。施設だって何平米とか、子供の人数に応じて保育士が何人とか、保育内容だったり、保育士さんだってきちんとした国家資格ですよ。学童保育はそういう最低基準が何もないんです。2007年にやっとガイドラインが出来ましたが、ガイドラインは法的な拘束力が全くないんです。目指すもの、望ましいものみたいな基準なんです。学童保育は10年間で1.5倍に増えてるんです。現在2万800か所です。子どもの人数は84万弱です。ほとんどの市町村で学童保育がありますが、まだ1割は無い地域もあるんです。私は今自主学童にボランティアで行っていますが、そういう自主学童も無くて、5時までじゃ入れられないからという事で諦めてしまっている人もいます。待機児童の問題は保育園でもクローズアップされていますが、学童保育も、潜在的な待機児童（預けたいけど預けられない人、保育料とかいろんな理由で）は50万人いるんじゃないかと言われています。それから、発達障害の子どもの入所状況も、今回初めて調べられました。今までにも障害児を抱えている子どもの調査は有ったんですけど、発達障害の子どもの調査ですね。障害児の入所の内、7割がたは発達障害の子どもです。

障害児の入所は5年前と比べても1.5倍くらい増えています。1学童あたり平均で2.38人受け入れています。障害児の加配（指導員の加配）の国の基準は、障害児が1人でも10人でも一緒なんです。しかも指導員の年収が150万円以下なんです。指導員のところは、調査をするたびに減入ってきます。全国の指導員は9万2,3千人いると思いますが、その中の7割近くが年収150万円以下です。国が指導員の経費を150万円でしか計上していないんですね。だから指導員の収入も増えないんです。最近では民間企業、鉄道会社などがやっていますね。神奈川の相鉄とか小田急とかが盛んにやっていますね。学習塾とかも参入しています。高いところは保育料は4万とか5万とかですけど。遅くまで預かったり、夕食を出したり、中にはお風呂まで入れてくれたりというのがあります。お金を出せばですけど、お金が無いからひがんで言うわけじゃないですけど、そういうのでいいのか子どもを。夕飯まで食べさせてお風呂まで入れて？ 何なんだと思いますけど。まあ、「できる人は良いんじゃない？」という人もいますからね。今度児童福祉法が昨年8月に改訂されて、国として学童保育の基準を省令で定めるわけです。厚生労働省がね。そして定めたら、今度は市町村が、春日部なら春日部市が、其々の条例で基準を定めるわけです。そこにどれだけ要求を盛り込めるか？ 施設の規模だとか設備だとか、開設時間だとか。今日は春日部の総会ですけども、これからは市とか各地域での運動が、とても重要になってくるだろうなと思いますね。県連も、そのような重要な情報をみんなに行き渡るようにしていく事を努力すると思います。それだけ学童保育が認知されてきたという事ですけれども、何だか構える間もなく、条例とか基準がきちんとできないままにどんどん増えているなっていう気がします。全国いろんな学童保育がありますが、ほんとに補助金だけもらって、ロッカーだけ並べて、えさじゃあるまいし衣装ケースに袋菓子入れておいて、子どもがそれを取りに行き、部屋の隅に持ってって一人でこうやって食べる。それでも学童保育で補助金もらって、指導員はシルバー人材の人頼んで。あとはすごい立派な50か60くらいのテレビをバーンと置いて、ビデオを垂れ流しの様に流して、好きな子は学童来てずーっと見ている。「外ダメ外ダメ、危ない」とか言って外で遊ばない。子どもに合わせて指導員が動くんじゃないなくて、指導員のやり易い様に子供を見ている。びっくりするようなどころがありますよ。埼玉も大変だけど「まだましだなあ」って思ったりします。「まし」でいいのか？ って問題もありますけどね。国の基準がないという事に尽きるんですよ。ほんとに学童保育にはお金をかけないですよ、保育園と比べて。

＜大変な指導員の仕事＞「指導員の仕事は日誌書く事じゃない。保育が仕事です」

「少子化少子化」って言いますが、少子化にならざるを得ないんですよ。私の相棒も、1人生んで産休育休取りましたけど、2人目が大変なんです。まだ実家の母がお迎えに行ったりしてくれればいいんですが、2人目の時は母が今度はおばあちゃんの介護に回ったりして、その相棒は2人目の時はとうとう指導員をやめて保育園に転職しました。そしたら「先生、保育園は大変。毎日1日保育。」って当たり前じゃん、保育園なんだから1日保育だよそりゃ（笑）。でも保育園は保育園で、夜の会議とか、役所に詰めかけるとか、そういうのが無いからその点は楽だったね。学童は会議多いです。草加は会議大好きですからね。指導員は実務なんかもいっぱいあるんで、こなすのが大変なんです。「指導員の仕事は日誌書く事じゃない。」って言うんですが、まあ日誌書く事は大事ですよ。でもいろんな実務が全部統一されていますからね。日誌から週案、月案、週のまとめ月のまとめ、安全点検やら何やらいろいろあるんです。そういうのをこなしてるうちに仕事してるような感じになっちゃう。指導員の仕事は保育ですからね。保育を充実させたり、1人1人の子どもを理解したりするためにそういう実務はあるのであって、日誌書いたから仕事が終わって言うんじゃないんですよ。キャンプがだんだんできにくくなっているし、プールなんかとんでもないって言われていますよね。ちょっと怪我しただけでも大変です。昔は「まあいいよ」って、子どもが元気に遊んだら小っちゃい怪我なんていくらでもありますよね。草加は私が今までいたところは余裕教室に入ってるんですが、校庭の木とか間違っても登っちゃダメなんですよ。木なんて登るものだと私は思っていますけど。公園に行って登らせようとしても怒られるんですよ。今の八潮は園庭に木があって、登って遊んでいます。まあ木登りできればいいのかっていうのも有りますが、もっと子どもを自由に、縛りが無い中で保育したいなって思います。保育料の事とか、指導

員の事とか、5年ぶりの調査で見ましたが、指導員のところは本当に厳しい条件ですね。これから市の運動が問われるところで、頑張っていくしかないなともいます。学童保育の役割は、子どもが安心して生活できて、それで働く親を支えるっていう事ですから、必要とする人がみんな入るように目指していかなければなりません。

<疲れている子どもたち>「おれ、思いつきり寝て一よ」

今、子どものお話をしたいんですけども、私指導員を34年やってて、いつのころからかな？ 10年目くらいかな？ 子供は何でも「食べたい」「行きたい」「やりたい」といつも要求を出してきて、飛び跳ねたり遊んだりして、指導員も一緒になって遊んで、「遊んだ」「おやつ食べた」ってした後「疲れた」っていう生活を繰り返してきたような気がします。それがいつ頃からか、子どもが「遊ぶのも疲れる」っていう風になってきましたね。帰ってきて「ああー疲れた」といい、宿題をするでもなく遊ぶでもなく、ぐたーとしてるんですね。この前も、「おれ、もう思いつきり寝て一よ」っていうんですね。サラリーマンのおじさんじゃあるまいし、絞り出すようにそれを5年生の男の子が言うんですよ。疲れてるんでしょうね。子ども用のリポビタンとかあるんですものね。慢性的な疲労感と言うか、最近朝ごはんを食べようとかわいそう言われてますけど、朝ごはんどころじゃなくて慢性的な睡眠不足なんですよ。生活も体も遊びも友達も、そういう状況が繋がっているんですね。体に関しては体幹部が弱っているって言われますね。背筋とか腰、背中が固くなっているって。大きく体を使う運動、だから木登りなんかとても良いんですけどね。思い切り走り回ったりするのがね。だから施設っていうのはほんとに大事なんです。今までの学童は空き教室が2階だったのが致命的でした。学校では階段は走ってはいけないところですが、放課後ですから。「走っちゃだめだよー」って言いますが2段ぬかしで走って行きますよ。校庭もまとめて連れてって、またまとめて連れて帰らなきゃいけない。ちょっと遊びたい時にさっと外に出る事が出来ない。だから園庭って大事だなと思います。「下におりて校庭に」って言うと、中には「いいよもう、かたまりーからここにいる」っていう子もいるんですよ。「行こうよ校庭」「えーどうせ15分だろ？ 15分だったら行かぬえ」とか言ってるのね。やっぱり、動かしたいときに体を動かせない。すぐ遊べない環境ね。動かさないから体が固まっちゃって、余計疲れやすいんです。今の子どもたちって、下に座って生活する場所って無いですよ。学童って下に座ってこう、低いテーブルでやりますよね。今の学童はテーブルで宿題やらない子がいますね。寝そべってやっています。「おれはこの方がいいんだよ」なんて言いながらね。生活習慣ですね。

<評価を気にする子どもたち>楽しむはずの遊びの場面で緊張する子ども

友達関係については、攻撃的な子が増えたって言いますね。ゆっくり話を聞いたり聞かれたりする体験が少ないのかなって思います。コミュニケーションをとる事が苦手な子が多いように思います。言葉を知らないという事もあるんですが、聞いてもらう体験が少ないのではないかな。今から15年くらい前に私が「こういう子がほんとに増えてきた」と感じて書いた文書があるんですが、その子の事を紹介します。この頃から、「できる」「できない」とか、評価に敏感な子が増えてきたと感ずる様になりました。失敗を怖がる、自信の無い事はしないという傾向ですね。指導員になって20年目くらいの子で、だいきくんっていうんですが、指導員のそばが好き。会話も「カラスって、光るものが好きなんだよ。知ってた？」必ず後に「知ってた？」が付くのね。「地球はだんだん熱くなるんだって。知ってた？」「若乃花って3人いるんだよ。知ってた？」必ず「知ってた？」っていうんです。それで、「へえ、すごいね」って言うんですが、「知ってたよ」っていうとちょっと不機嫌になるんです。指導員も長くやっていると、知っててもムキになりませんよ。「へえー、そうなんだあ！」って言ってあげると上機嫌になる。ある日、1年生と私でトランプで7並べをやっていた時です。子どもどうしてもトランプやるんですが、その子はやらない。指導員が入った時だけ、やるんです。「僕は別に負けてもいいから」「僕だけパス1回でもいいよ」って言うんです。これでは一緒にやっている子たちが戦意喪失です。「だいちゃん、そんなことしたらつまんないよ」「そうだよ」と他の子からも指摘されます。「じゃあ、ぼくやんない」となってしまいます。良く見ていると、だいきが友達とだけでトランプをやるのは、ババ抜きだけなんです。日誌

に書いてあるんですが・・・

だいきがババ抜きで自分のところにババが来ると、「ジャジャジャジャー、運命だから仕方ない」と言います。負けたのは自分の運が悪かっただけ。と言いたいのです。7並べや神経衰弱、スピードをやるかと誘ってもやらない。「だいちゃん、スピードやったっけ？」と私が聞くと、「知ってるよ。でもやらない」バツの悪そうな声で答えます。私は本当にだいきがスピードをやっているのを見たことが無かったのでそう聞いたのに、だいきには「やれないんじゃないの？」と言われたように感じたのかもしれない。だいきは偶然が勝負を決めるババ抜きはやっても、実力が勝敗を決めるものはやりたくないんだな。

新しいことになかなか手を出さない子どももたくさんいましたが、だいちゃんは「ちょっとこの子はなあ」とすごく気に入りだしました。

だいきが「負けても良いから」というのは負けるのが嫌だからで、それなら初めから勝負はしないし、負けるのが嫌な自分をみんなに知られるのはもっと嫌だったんです。

それでも、興味が無いわけじゃないんです。友達がやっているのをちらちら見えています。「だいちゃん、スピード知ってるけど、やったことあったっけ？」と話しかけると、「知ってるけど、やったことない」と言うわけです。「じゃあ、やまもっちゃんとやろう」と私が誘い「別にいいけど」カードを分けていると、「スー」と大きな息をして、唾を「コクッ」と飲む。ものすごい緊張してるわけ。私と、たかだかスピードをやるだけでそこまで緊張するんです。私の方が緊張します。「勝っちゃいけないな」と思うわけです。ゆっくりだいちゃんペースでやりはじめたら案の定、パッパとはできない。でもね、次の日、「やまもっちゃん、スピードやろう」と言うんです。でも決まり文句が「手加減してね」(笑)って言います。

だいきにとって7ならべやスピードは、たかがトランプではない。勝ち負けに敏感になのはだいきだけではないのですが、本来心を開放して楽しむはずの遊びの場面で、緊張しているだいきの姿を見るのが、私にはとてもしんどく、切なくなりました。だからと言って、「初めはみんなできないんだから」とか「負けてもまたやればいいじゃない」とか諭しても、それは押し付けであり、別のプレッシャーを与えるのではないか。だって負けるのが嫌なんだから。「みんなそうだよ」と言われても、それを見られるのが嫌なんだから。だから、だいき自信が安心して自分をさらけ出せるようになるまで、指導員が丁寧に関わるしかないんだなと思いました。

そんなある日、スピードをしていると、5年生の子が退屈凌ぎに「おっ、スピードやってんの？ おまえでできるの？ おれとやろう」と言います。「どうするのかな？」と思って見ていたら、だいきの中では「5年生だから負けてもしょうがない」と思ったんじゃない？「やる」(山本・・・やるんだ)。そうすると、もう勝負にならないよね。そしたら、「おれ、左手でやってやるよ」それでもだいきは真剣で、終わったあとにだいきが私のところに来て、「スピードとかさあ、強い人とやった方がうまくなるって、なお君が言ってたよ」と、自分に言い聞かせるように言います。だから、「弱い人とやって勝つだけじゃなくて、強い人とやって負けても、そうやってうまくなっていくんだ」って、思ったのね、この子は。だからその後、スピードでなおとやったもんだから、なおがけん玉も付き合ってくれて、一生懸命練習するんです。家でも練習するってところが違うのね、だいきの場合は。

くつながり合う子どもの心> 「はやとくんは、本当は優しいんだよ」

お迎えが来れなくなって3学期から子どもたちだけで帰るようになった時の事です。はやとと、保育園から一緒のまどかちゃん、まどかちゃんのお姉ちゃんと一緒に帰るんですけど、だいきははっきり言うところちょっとトロイんです。そうするとはやとが「早くしろ」とか言うわけです。ランドセル蹴ったりとかね。お母さんからだいきが「帰るのいやだ。迎えに来て」って泣くんですって。はやとを呼んで、「ちゃんと連れてってしてくれてるの？」と聞くと、「あいつ、超おせーんだよ、歩くの。信号とか止まんねえし。大変なんだよ！」で私、だいちゃんに「だいちゃんさあ、はやとくんはね、だいちゃんをちゃんと連れて帰んなきゃと思ってるからさ、帰りはなるべく、さっさと歩こうね」と言うと、涙目になって「うん」とか言ってます。お母さんも来れる日はお迎えに来てたんですけどね。その後こんな事があり

ました。子どもってこうやってつながっていくんだなあって思った出来事ですが・・・。

一昨日夕方から急に雨になりました。子どもたちは無事帰ったかなあと心配していたところに、ずぶ濡れになってはやとが戻ってきました。

半分くらいまで行って戻ってきたんです。そこが子どもね。半分言ったらそのまま行っちゃえばいいのにね。(笑)

〇〇通りのセブンイレブンのところでだいきを雨宿りさせておいて自分は傘を取りに戻ったんです。タオルで拭きながら「先生が持って行ってあげようか?」「いいよ」と、だいきの置き傘を手にとって雨の中をまた帰って行きました。その後の事です。はやとはセブンイレブンのまえで入口のタイルのところで滑って転びました。幸い擦り傷だったらしいのですが、それでもだいきに傘を渡し、一緒に帰って行ったのです。私たちは昨日、だいちゃんの連絡帳を呼んでそれを知りました。はやとが転んだ事、そして泣いた事。「はやとくんね、歩きながらちょっと泣いてたんだよ」とだいきが言ったそうです。お母さんが、「はやとくんは、だいきが1年生だから、自分より小さいから、自分は濡れてもだいきのために傘を取りに戻り、転んでも、我慢してだいきを送ってくれてんだね。」と話し、「優しいね」というと、だいきが「優しさに決まってるじゃん。はやとくんは、本当は優しいんだよ」と言ったと書いてありました。シャイでぶっきらぼうで、泣いた事なんか1年生の時だって一度あったかどうかというはやとが・・・連絡帳を見ながら、文字が震えました。「はやとっていいやつだなあ、まいったなあ」っていう感じです。

それでセブンイレブンのところに中学生のお姉さんたちがいて、その頃って箸が転げてもおかしい年頃でしょ? そこへはやとがスッテーンと転んだわけで、お姉さんたちも悪気はないと思うけど笑っちゃったのね。だから傷ついたわけよ、はやとは。それを思い出しても今でも涙が出そうなの(涙)。すごい恥ずかしいのと悔しいのと情けない思い。それでも傘を取りに行っただいちゃんを連れて帰ったわけ。だからだいちゃんはそのを見て、はやとくん、すごいなあって。「はやく歩けよー」とかいうあのはやとくんが泣いたわけだから。はやとくんの違う面を見たのね。

この日の出来事はだいきの心をゆさゆさ揺り動かしたに違いありません。かわいお兄さんの、自分が知らなかった面を見たわけですから。はやとの優しさを直接実感したのですから。「優しさに決まってるじゃん」の言葉に、だいきのその時の気持ちが全部込められています。子どもたちは一緒に生活し、いろんな体験を共有する中で、知らず知らずのうちに影響し合い、そして互いの事が判り、つながっていくのだと思います。

このはやとだって1年生の夏休み、公園でおしっこを失敗して、その時6年生だったけいたくんに、みんなにばれない様に連れて帰ってもらった事があります。

私覚えてます。私が部屋にいと「やまもっちゃん、やまもっちゃん」って。この頃は民家の汚い部屋に住んでたのね。「なに?」って言ったら、はやとを連れてるんです。「どしたの?」と聞いたら、「やっちゃったよ!」って。

みんなお互い様です。そして準繰りです。6年生だって1年坊主の頃があったのです。同じように失敗し、同じように優しくされた経験をしているのです。だからこそ、頼られる番になった時、それができるのです。下の子の面倒を見ながらあてにされると、「おれってあてにされてるんだ」「私って役に立ってるんだ」と思い、自分をまんざらでもないと思える子どもが、自分を大切にでき、仲間を大切にできるのです。

2年生になっただいきが1年生のたくとスピードをやっています。「僕は左手でやってやるよ」と、ちゃんと手加減してやってあげているのです。やっぱり学童保育はお互い様と順繰りの世界なんだと思います。

こういうふうに、遊びの場面でとても気になるだいちゃんを見てから、そういう子がすごくふえているなあと感じています。結果とか評価にとっても過敏な子たちです。

<苦悩する親の気持ちに>「大丈夫だよ。お母さん良くやってるよ」

それから言葉でのやり取りが苦手なタイプの子です。この子はお母さんと二人で、お母さんも中学卒業

しておうち飛び出しちゃって一人で生きてきた人でね。我が子を産んで育ててるんですけども、お母さんもほんっとに忙しいんですよ。17の時に産んだからまだ学童入った時には23、4でね。父母会にもなかなかなじめなくて。公立の保育園じゃなく私立の保育園に入れてたから余計なんですけど、もう疲れ果てて一人で育てて。お母さんが連絡帳を見ると、忘れものや提出物、授業中寝たとか……。お母さんもう見るの嫌なんでしょ。学校の先生も、いちいちそんな毎日知らせてどうすんだ？って思うのね。何度か知らせる必要はあるでしょうけど、何も毎日書かなくてもね。だから学童の連絡帳にはできるだけ良いことを書いてあげようと思うわけです。良い事探すのが大変なんですけどね。ある日子どもが熱を出して、お母さんには何度も電話して、着信も見てるはずなのに連絡無い。とうとう私は送って行ったの。そしたらお母さん帰ってきて。「お母さんさあ、着信があった時はちょっと……連絡を」って言ったら、「ああ、忙しかったんで」それで、「熱があつて……」と話したら、「大丈夫だよ。だから早く寝ろって言ったろ！」みたいな感じで。「怖ッ！」と思いましたが、お母さんが冷蔵庫からビール持ってきて「飲む？」って言うから、私も帰りだし、せつかくの糸口だと思ったから、頂きました。まあ、嫌いじゃないですし。

いろいろそこで話しました。「正直、かったるい。もうほんっとウザい時ある」「でもずーっとお母さん一人でやってきたんでしょ？」「そうだれの手も借りずに一人でやってきた。宿題とか勉強とかいろいろ言うけど、私は別にいいと思ってる」って。でもこの子はさあ、言葉でいうとすぐ手が出るし蹴飛ばす。噛みつくし。でもお母さんの前だと違うのね。お母さんの事はすごい見てるの、「ママが疲れる」とかね。母の日の制作で、かけ布巾を色鉛筆で書いて作ったのね。不器用なんだけど一生懸命やったわけ。「お母さん、褒めてあげて」お母さんに言ったら、「うん、ああ」って照れくさそうに。すごい勢いでビール飲みながら「お前早く寝ろ、具合悪いんだから」なんて言うわけ。「お母さんさあ、父母会さあ、大変かもしれないけど、うちのお母さんたちみんな気が良い人たちだし、たまには出てくれば？」みたいな話をしました。でも、「ほんとに時々、この子がいなかったらもっと楽だったのになあって思う時がある」と言いながら、ぼろぼろ泣き出すわけです。「お母さん、えらいねえ」「でもさあ、この子がいたからお母さんも助けられたって時もない？」って言ったら、「うん、そうだよ」って。「お母さんさあ、みんないろんな事抱えて生きてるんだよ。だから大丈夫だよ。お母さん良くやってるよ。」って言いました。「学校の先生も仕事だからいろいろ書くけど、見たくなかったら見なくてもいいんじゃない？」なんて言ったりして。「学童ではしっかり預かるからさ、心配しないで。でもこの頃、すぐ手を出さないでちょっと我慢する様などころも出てきたよ」なんて言いました。この子は他の子にはすごく攻撃的で、指導員にも「ババア」とか言ったりしますが、お母さんの事はすごく気にしてるんです。「ママが疲れてる」とか、一緒に帰りながらコンビニに寄ったりすると、「これママがよく飲んでる」って。「お金が無い時はこれなんだ」とか、ユンケルのランクを良く知ってるんです。そんな話をするとお母さんも泣き笑いするわけ。ほんとにお母さんが好きなんだね、って。

<2つの自分を抱える子ども>「うっせえんだよ、ばばあ！」

さて、これは今度行った学童の3年生の子なんですけれども、すごい第一印象明るくて元気な子なんですけど、おやつテーブルどこに着くとか、上の子の顔色見ながら動いたり、お姉さんたちもいじわるじゃないんですけど、気分で呼ばなかったりするとしょぼんとしていたり。あとお土産を持ってきたら、お姉さんたちに配るの。おやつにポッキンアイスとか出すと、オレンジとかグレープとかいろいろある中で「私グレープがいい」っていう子がいると、自分はグレープ取ったのに交換してあげたり。すごい気にするわけ。運動会前の練習でリレーで、「速く走って」って言われて転んだりして泣き笑いするのね。みんなは「〇〇は大丈夫だよ」なんて言って適当にあしらっている。ある日、指導員だけ入れる部屋があるのね。彫刻刀とか資料とかしまっていて、「子どもは勝手に入らない事」って書いてあるのね。そこに入っているのを私が見たの。それは、お姉さんたちから何か取ってくるように言われたみたい。それで私が、「あれ、どうしたの？ここは入っちゃいけない事になってるんじゃないの？」と言うと、今まで見たことも無い様な形相になって、「うっせえんだよ、ババア」って言うんです。まあ確かにババアなんで良いんですけどね。それで私が、「いや、確かにババアだし、ジジイじゃないからいい

んだけど、勝手に入っちゃいけないって聞いているよ？」そうしてるうちに専任の指導員が来て、「どうしたの？」するとパッと表情が変わり、「ハイ、ごめんちゃーい」なんて言いながら行っちゃったわけ。まだ私もそこに行って1か月半ですし、専任じゃないから背景もわかりませんが、この子もいろんなものを抱えてるんだろうな、とっています。本当に、子どもたちはそれぞれが、いろんなものを抱えているなあと思うと、心が痛みます。子どもは2つの自分の自我を行ったり来たりしなくても良いようになってほしいなあと思います。

<保護者会の役割> 「甘えて」「頼って」「吐き出して」ぼちぼち頑張る

次は保護者会について。働きながら子育てしているんですから、本当に大変だと思います。でも、一人で背負い込んで良い事一つも有りません。子どもが学童保育に入ってたまたま知り合った親同士・・・子供もそうですよ、たまたま学童であった仲間・・・ぜひ甘えたり頼ったりして欲しいですね。それから吐き出す、辛い時とかね。それを自分から踏み出して欲しいと思います。働きながら子育てをしている親は、誰かれなくみんなが辛い思いをしていると思います。だからこそ、お互いが甘えたり吐き出したりできるつながりを持ってほしいなと思います。そうしながら、「ぼちぼち」頑張ってくれば良いと思います。子どもなんか、最後に帳尻合えばいいんですよ。私も子供の結婚式に何回も呼ばれましたよ。中学の時にマッキンキンに髪染めてタバコ吸ったりした子もいたけど、いろんな事体験した子も最後に軌道修正して戻ってくればいいんですよ。良い子でずーっと来た子の方が怖いです。さっき話しただいちゃんも、明治の大学生になり応援団に入り、ビデオ見せてもらったけど、「ああ、だいちゃんもこうなったんだ」って思いますよ。いろいろね、子どもは子ども自身、育ててくれます。だから親も、どうしようなんて思わずに見守るのかな。先輩のお母さんに聞くとみんな「あつという間だ」って言いますね。渦中の人たちは「こんなに大変なのに何言ってるの」と言われるかもしれないけど。今度私のご苦労さん会をやってくれるって言うんですが、今では子供の話よりも体の話、どこが悪いとかここが悪いとか。でもみんな、あのころの事は「大変だったけど楽しかった」と皆言います。だからしゃかりきにならずに「ぼちぼち」頑張ってください。頼れる人がいたら頼って、不満も流れ流して、心を軽くして。

父母会が無いところもあると思いますが、これから市の施策が決まっていきます。お母さんが働いて生活するために学童保育はあるんです。それで、学童保育ってずーっと続いているんです。春日部に学童保育があったのも、先輩の親が作り運動をしたおかげであるんですから。私も、自分が見た子が親になって入ってきたり、孫みたいな子たちがたくさんいます。やっぱり働いて育てなきゃいけない。今、専業主婦でなんていう人は少ないんですから。アベノミクスだなんだって言ったって、「生活が潤ってきた」なんて思えないでしょ？みんな結構、大変なんです。ぜひ、親同志で支え合ってください。学童保育の中だけでも、わかり会える人達がいるっていうのが良いですね。

あと一つだけ、私毎日新聞を取ってるんですが、「これがママカーズの現実」っていう記事が金曜日の夕刊に出ました。「スクールカーズ」ってのは聞いた事ありますし、「公園デビューなんてのも聞きました、これ、あまり学童保育のお母さんたちには関係ないのかなって思いながら読んでんですが、こういう風に見えるのね。家族関係・・・旦那とか子どもとか、彼氏でもなんでもいいんですけど・・・そういう親密な関係を築けたら、ママグループの中の自分の立ち位置なんかどうでも良くなる、ママカーズなんて全然気にならなくなるって書いてあるんです。ほんとは、家族、夫、子ども、母、父など、家族の中でもっと感情を交わし言葉を交わし、濃密な関係を築くのがすごく大事で、それがあつたらお母さんたちも安定すると思うの。そういうところでは、家族間のそういった関係も希薄になっているのかなと思うわけです。そうすると、今度は外の方に目を向けて、私立の幼稚園に入れるとか、ブランド物のバッグを持ってるとか、ランチに行くのまで合せなくちゃいけないとか、恐ろしい世界があるわけです。学童には全く無関係かというところじゃなくて、こういう状況の中で、お母さんたち子育てしてるっていう事は、やっぱり大変なんだろうなあって思います。良い意味でもっとあけすけに、さっき言ったように吐き出すとか、「うちなんかそんな無理よ」とか、学童も卒業式のシーズンになると、「もう買わなくていいよ、1日でしょ、ブレザーなんか着るの。うちも〇〇ちゃんのお下がりだし」「〇〇ちゃ

んにあげるわよ」というような感じでね。だけど、(新聞を指して) こういうところでは、卒業式でどのブランドのスカートだとか、そういうので親がまた必死になるんだらうなって。すごいわかばかしてて片づけられないでしょ？ 中にいる人はそれがすべてになっているわけだから。まあこういう空気の中でおかあさんたちは大変だなって思います。学童はそんなんじゃないわって言うかもしれませんが、自分の子どもの学校のクラスの親たちには、こういう人もいるかなっていう、こういう中でみんな子育てしてるんだなって思うわけです。夕刊に載ってたんですけど、とっても衝撃でした。だから学童の親は、学童に居る間だけは、頼ったり頼られたりしながら子育てして欲しいなって思います。どうもありがとうございました。

注)

本原稿は、山本先生の講演録音を基に、事務局が起こしたものです。お話しの雰囲気や壊さない様、先生の口調なども出来るだけ再現しながら、細かいところは多少の修正や省略を行っています。

太字の見出しは、話題の移り変わりを追いつき様に事務局が勝手に付記したものです。

斜体の部分は、先生が過去に書かれた文書を読み上げている部分です。

山本博美先生のお話を聞いて ～出席者の感想～

◇子どもの生活の話では感動しました。生の声が聞け、良かったです。指導員の方と親、子との関係を改めて考えることができました。ありがとうございました。

◇とてもお話が楽しく、わかりやすく、あっという間の1時間でした。学童の先生方には、益々感謝の気持ちが出てきました。他の父母の方々や、まだ経験の浅い指導員の方にも山本先生のお話を聞かせてあげたいなと思いました。

◇実体験をされた話を交えて、とても楽しい講演が聞けてとても良かったです。

◇いろいろな子どもがいる事。それぞれに合った接し方が必要で、指導員の方の努力に頭が下がります。大人として父母の仲間として、みんなで協力しあえればと思います。

◇笑いあり、涙が出てしまうような話ありで、楽しく講演を聞く事ができました。長年保育をされているので、子どもの変化など、子どものこと、親の気持ちをわかっていて、自分の子どもの学童にもいて欲しい先生だと思いました。だいちゃんのトランプの話は、まさにわが子にもあてはまるピッタリな話で、とてもおもしろく聞けました。指導員に合わせた保育をしている話など、指導員の仕事は日誌を書く事ではない、保育をする事、指導員は業務をこなすことが大変、給料が低いことなど、状況を知る事ができて良かったです。

◇もっと沢山、お話を聞きたかったです。少し肩の力が抜けられたような気がします。貴重なお話をありがとうございました。

◇いろんなことが、参考になりました。

◇楽しくお話を聞かせていただきました。子どもたちのお話は、私までウルウルしてきました。あらためて子どもの心は繊細でかわいいと思いました。これからも子供の話に耳をかたむけ、肩の力を抜いてやっていきたいと思います。

◇いろいろな子どもたちの体験談が聞けて、子どもに対する接し方や見方、育児の仕方など、すごく考えさせられる事が多かったです。とても勉強になったと思います。

◇先生のお話は過去の生徒さんのお話など、とても楽しく、また参考になるお話ばかりで、とても有意義な時間を過ごすことができました。また機会がありましたら是非お話を伺いたいです。

◇大変興味深くお聞きしました。学童保育の大切さや保育上の問題点、環境、現状を知ることができました。長男は学童に本当にお世話になり、現在の子どもの性格や友人関係というコミュニケーション能力を築く土台になりました。都内では学童が衰退しているという現状は、今後不安な要素でもあると思いました。共働き社会になりつつ、少子高齢化という中で、子どもにもっとお金をかけるべきと政治上考えることが多いと思いました。声を挙げて意見を出すことが重要であると思いました。子どもを健全に育てていくという事は、社会を明るくしてゆく様なものであると思います。現在の学童を築き、改善されていらした先生に感謝いたします。現在子どもは学童が楽しいと言っています。社会性を育てていただいています。うちの学童は環境面でも充実していると思いました。

◇山本先生のように一人一人の子たちの個性を良い方向に伸ばしてもらえそうな指導員が増えて行け

ばいいと思いました。私たち父母が声を出し合い、学童保育が保育園や学校の様に確立したものになっていければと思います。

◇子どもたちの話を聞いて、自分の子どもに重ね合わせてみたりしました。小学校、学童と、親の目から離れている時間が多くなり、もっと子どもの気持ちに近づかなくてはいけないと気付かされました。学童では子供たちは本当に楽しそうに過ごしています。働きながら子どもを預けるという事に最初は材悪寒を持っていましたが、楽しそうに過ごしている子どもたちを見ると、自分の考えが少し違っている事に気付きました。今回、指導員という立場からの先生のお話を聞くことができ、父母ももっと学童について考えていかななくてはいけないと思いました。機会があれば、たくさんの父母、指導員の先生に、山本先生のお話を聞いていただきたいと思いました。

◇生の声を拝聴させていただき、ありがとうございます。指導員の先生方と、話を交えながら、子どもたちを見守っていきたいと思います。

◇学童保育は厳しい現状にある事を初めて知りました。子どもと指導員さんとの関わり、親が気づかないところで、いろいろな問題など抱えている子どもも多く、子どもとの関わり方も考えさせられました。

◇とても楽しいお話でした。山本先生のような指導員が多ければ、子どもも楽しく学童に通えるんだろうなと思います。母子家庭の話、障害児の話など、自分と重なってとても感動しました。子どものことをそんなに細かく見ている様子が素晴らしいと思います。先生に指導していただけたら、働いている親、預けられている子どもは安心してのびのびと生活できるんだろうと思います。うちの学童の指導員も少し見習ってほしいと思います。

◇指導員の先生方が、児童の個性に応じて対応されていることを改めて有難いと感じました。

◇指導員の先生の実態を知る事ができ、短い保育時間の中でしっかりと子どもを見てくださっている事を知る事が出来ました。地域によって格差の違いがある事に対し、大変苦勞されている事がわかりました。今年度、私の子は小学校4年生で学童入室は許可されなかったのですが、子どもにいろいろな問題もあり、入室させていただく事が出来ました。3人子どもを持つ中で、小4の子が一番子育てに苦勞しています。先生の話の様に、苦勞を楽しめる様に子育てしていこうと思いました。

◇私の子どもはとにかく活発で、指導員の方から「本当に言う事を聞かないで困る」と言われ続けてきましたが、本日のお話の中で「活発で良い！」と言われた事、とても嬉しかったです。山本先生のような指導員さんがたくさん増えてくれるといいなあと思ってしまいました。